2013年度 大阪経済法科大学 秋学期末試験答案用紙

【問題１】経法工場では、予算の作成に信頼うる基礎を提供し、かつ原価管理を効果的にするために、標準原価計算制度を採用している。次の資料に基づいて、差異分析を行いなさい。（60点：5点×12）

〔資料〕

１．年間予算データ

（１）製品の予算販売単価と年間予算生産・販売量

予算販売単価　19,000円

年間予算生産・販売量　24,000個

（２）製品1個あたりの標準製造原価

① 直接材料の標準単価と標準消費量

標準単価　500円　　標準消費量　10kg

② 標準賃率と標準直接作業時間

標準賃率　1,000円　　標準直接作業時間　3時間

③ 製造間接費

製造間接費は直接作業時間を基準として標準配賦される。なお、製造間接費には公式法変動予算を設定しており、変動費率は800円/時間、年間固定費予算額は、64,800,000円である。また、年間の基準操業度は72,000時間である。

（３）販売費および一般管理費年間予算額　36,000,000円

２．当月実績データ

当月の実際生産・販売量は1,850個であり、原価要素ごとの実際発生額は以下のとおりであった。

① 直接材料の実際単価と実際消費量

実際単価　510円　　実際消費量　18,100kg

② 実際賃率と実際直接作業時間

実際賃率　1,020円　　実際直接作業時間　5,500時間

③ 製造間接費実際発生額　9,300,000円

直接材料費総差異	19,000 円	（ 有利 ・ 不利 ） 差異
価格差異	181,000 円	（ 有利 ・ 不利 ） 差異
数量差異	200,000 円	（ 有利 ・ 不利 ） 差異
直接労務費総差異	60,000 円	（ 有利 ・ 不利 ） 差異
賃率差異	110,000 円	（ 有利 ・ 不利 ） 差異
時間差異	50,000 円	（ 有利 ・ 不利 ） 差異
製造間接費総差異	135,000 円	（ 有利 ・ 不利 ） 差異
予算差異	500,000 円	（ 有利 ・ 不利 ） 差異
変動費能率差異	40,000 円	（ 有利 ・ 不利 ） 差異
固定費能率差異	45,000 円	（ 有利 ・ 不利 ） 差異
操業度差異	450,000 円	（ 有利 ・ 不利 ） 差異
標準製造原価差異	94,000 円	（ 有利 ・ 不利 ） 差異

科目	教員名	学籍番号	氏名	採点
30770 工業簿記	2062 山根 陽一	入学年度 E・L 番		

（裏面使用のときはこの位置を上段にして記入すること）

【問題２】次の資料に基づき、以下の設問に答えなさい。（40点：5点×8）

〔資料〕

１．販売単価　@1,000円

２．製品1個あたりの実際製造原価

（１）　材料費　@300円（全額変動費）

（２）　労務費　@240円（全額変動費）

（３）　製造間接費　@100円（うち@40円が変動費）

３．販売費および一般管理費

（１）　変動販売費　@20円

（２）　固定販売費及び一般管理費　2,400,000円

４．当月生産量は 20,000個であり、製品・仕掛品とも月初・月末の棚卸高はなかった。

５．当月の基準操業度は 20,000個であり、固定費は予算通り発生した。

設問1.　損益分岐点売上高および販売量を求めなさい。

売　上　高	9,000,000 円
販　売　量	9,000 個

設問2.　目標営業利益 1,000,000 円を達成するための売上高および販売量を求めなさい。

売　上　高	11,500,000 円
販　売　量	11,500 個

設問3.　販売単価を @1,200 円としたとき、損益分岐点売上高および販売量を求めなさい。

売　上　高	7,200,000 円
販　売　量	6,000 個

設問4.　販売単価を @1,200 円としたとき、目標営業利益 1,200,000 円を達成するための売上高および販売量を求めなさい。

売　上　高	9,600,000 円
販　売　量	8,000 個